



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和4年3月24日

232名の旅立ち～第72回卒業式



3月1日コロナ感染症に留意しながら第72回卒業式が挙行政され、232名の生徒が本校から旅立ちました。

各クラス代表が卒業証書を受け取った後、卒業生を代表して1組小西莉緒さんが、卒業後の抱負、先生方や保護者への感謝と、支え合った仲間へのエールを含めた卒業メッセージを贈りました。

また、PTA・同窓会からの記念品贈呈に際して、生徒代表の藤川誠也くん、水戸咲良さんが今までの感謝とこれからの抱負を含めたお礼の言葉を述べ、終始穏やかで温かい雰囲気の中での卒業式となりました。

三条高校より巣立った232名の卒業生の栄えある未来をお祈りいたします。

第30回国際高校生選抜書展 佐藤愛桜さん、優秀賞受賞

2年4組の佐藤愛桜さんが第30回国際高校生選抜書展において優秀賞を受賞しました。この書道展は「書の甲子園」とも呼ばれているもので、高校生の書道展としては国内最大規模を誇ります。今回の受賞作はスタジオジブリ映画『猫の恩返し』の主題歌「風になる」の歌詞を題材に、全紙(180cm×70cm)4行で書いたものです。歌詞のイメージを大切にしながらリズム良く書くことを第一に、全体構成や文字の大小・線の太さ細さや潤渇の変化なども意識して制作したものです。他の書道部員も切磋琢磨して書道展に取り組み、団体でも北海道地区優秀賞を受賞しました。今後も書を通じた自己表現を楽しみ書道部に注目です！



祝 北京五輪出場

卒業生の志賀姉妹が記念絵皿を寄贈してくださいました



北京五輪で史上初の決勝トーナメント進出を果たし、6位入賞したアイスホッケー女子日本代表「スマイルジャパン」。その主力として活躍した本校卒業生の志賀葵さんと紅音さんが本校を訪れ、オリンピック出場記念絵皿を

寄贈してくださいました。

お二人は高校時代はソフトボール部に所属しながら、クラブチームでアイスホッケーを続け、姉の葵さんは高校3年生の時に平昌オリンピック代表に選ばれ、2回連続のオリンピック出場。1歳下の紅音さんは今回初出場を果たし、日本躍進に大いに貢献しました。コロナ禍の影響で海外との試合を組むことができず、ほとんどぶっつけ本番のような状況であったとのことでしたが、紅音さんは「全く緊張はしませんでした。そういうタイプです」と笑っていました。その

言葉通り、予選Bグループを1位通過し臨んだフィンランドとの試合には敗れはしたものの、紅音さんがゴールをあげ一矢を報いました。「この4年間はずっとフィジカルを鍛えてきて、そこは手応えはありました。でもスキルの部分は世界のトップとはまだまだ力の差があることを実感しました。狭い空間でのテクニックや判断スピードにまだ開きがあります。また、がんばります！」と葵さんは力強く語ってくれました。

お二人にアイスホッケーとの出会いを尋ねると「小学校のスケートリンクの隣にアイスホッケーのリンクもあったんです。たまたま体験してその面白さにはまってしまいました」とのことでした。子どもの数が少なくなって今後のアイスホッケー人口の減少を心配している様子で、「やってみれば絶対おもしろいです」と力説していました。最後にお二人から「三条での3年間は本当に楽しく、その時の友だちは今でもとても大切な友だちです。ぜひ皆さんも高校生活を楽しんで夢に向かって進んでください」と三条生にメッセージをいただきました。

記念絵皿は生徒玄関ホールに飾っています。どうぞご覧ください。

ご退職・異動される先生方から三条生へのメッセージ

◆藤橋 昌俊 教頭 (札幌手稲高教頭)



帯広三条高校で3年勤務しました。関西生まれ関西育ちの私には「初めての十勝」でしたが、なるほど、北海道の中でも特にこの十勝を皆さんが愛する理由がよくわかりました。また、生徒も先生もそしてOB、OGも「帯広三条高校」が大好きということもよく理解しました。帯広三条の歴史と伝統、そしてこの連帯感はずっと十勝を離れた時、実感することでしょう。激動の社会変化の中、自分を見失うことなく、しっかりとした土台を作り、その上で自分の理想とする姿を築いてほしいと思います。『笑門には福来たる』～そう努めることで道は拓けると信じています。共に成長しましょう！

◆千葉 澄人 教諭 (ご退職)



三条生のみなさんへ 皆さんが生まれる前から、三条高校に勤務していました。もし、私が「素敵なお先生」だとしたら、それは出会った生徒と同僚の先生方のおかげです。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。多くの三条生を見てきたので、少しばかり分析をします。瞬発力と底力にあふれています。その力は、部活動や学校行事で遺憾なく発揮されています。期間や期日を明確に意識した時の三条生は強い。これに、継続力と粘り強さが備わると「鬼に金棒」となります。この力は、学力向上には必須の要件だと思います。残りの学校生活で、三条を通過点ではなく、人生の転換点にする意識をもって充実した時間を過ごしてください。

◆香川 喜義 教諭 (ご退職)

2年生のみなさんとは、もう一年一緒に三条高校で過ごし、一緒に卒業したかったです。しかし、その望みは叶いません。みんなと共に過ごしたこの2年間、楽しいこと嬉しいことが沢山ありました。しかし、次の一年は楽しいことよりも苦しいことの方が多いと思います。その一年間をみんなと共有し、サポートし、励ますのが先生の仕事でした。先生はもう直接みなさんにいつものように進路通信や廊下で声をかけることができませんが、みんなには苦楽を共に過ごす仲間がいます。仲間を大切に、一緒に頑張ってください。応援しています。さようなら。



◆吉田 知己 教諭 (ご退職)

高校時代が自分の人生の中で最も輝いていたと今は思う。ただ、思い起こしてみると、不思議なことに鮮明な記憶が蘇るというわけではないのだ。もちろん、卒業アルバムや文集の中にその記録の断片は残っている。友人と語り合えば、一瞬は思い出すこともある。しかし、日々の生活の中でふと浮かぶのは、そこから与えられる「何か」なのだ。



それは、同じ時間と空間を共に過ごしたという、言葉にすることが難しい手触りともいうべきものであり、生きていく意味そのものだと思ふ。そのような時を作り出す大切なものが、何気なく過ごす日常にある時には思い浮かべてみてはどうだろうか。

◆田原志津子 教諭 (ご退職)



「私たちはどこへだっていけるし なにものにだってなれるのです」…希望の光が見えてきます。新しい世界との出会いを期待させてくれる言葉です。「明日死ぬかのように生きよ 永遠に生きるかのように学べ」…身が引き締まる言葉です。自分の日常を振り返ると思わず反省してしまいます。前者はあるクラスに飾ってあったもの、後者は書道の授業で生徒が作品の題材にしていたものですが、いずれも私の心を活性化してくれました。学校は刺激に満ちあふれた場所です。そんな恵まれた環境で、そしてたくさんの素晴らしい出会いの中でこの仕事をやり続けられたことに今深く感謝いたします。ありがとうございました。

◆小林 聖明 教諭 (帯広緑陽高校)



帯広三条高校に赴任してから12年間、多くの生徒や保護者の方と出会い、素晴らしい先生方に支えられてきました。伝統があり文武両道で頑張る三条高校の校風は私を魅了し、私の胸中に湧いた三条愛がどんどん層を増し続けました。そんな三条高校を離任することはとても寂しく辛いことですが、新たな気持ちでチャレンジしスタートをきろうと思います。

私は嫌な事や辛いことが起きたら、ポジティブに前を向いて進むことにしています。「どうせ上手くいかない」→「やってみなければ分からない」、「自分にはできない」→「試しにやってみる」、「もうこれ以上できない」→「あと少しだけやってみよう」

三条生の躍進を祈っています。

◆平澤 勝彦 教諭 (帯広柏葉高校)

三条高校に赴任して、あっという間に13年になっていました。この間本当にいろいろ貴重な体験をさせてもらった印象があります。今思えばありがたいことばかりです。この13年は生徒にも保護者の方々にも教職員の方々にも感謝、感謝です。生徒の皆さん、それぞれにとって貴重な3年間です。自分の身になる全てのものを見逃さないようにアンテナを張り、自分の目標に向けて「みんなで」最後まで諦めずに進んでほしいと思います。三条生はそんな力を持った集団です。そう遠くない次の職場で応援しています。



◆山本 浩介 教諭 (帯広柏葉高校)

平成十四年より、縁あって母校で二十年間勤めました。多くの人に支えられ、「人」に恵まれてきた人生が何よりの宝です。人間関係が希薄になりがちな昨今ですが、自分を正してくれる良い仲間をつくり、新しい価値観や刺激をもたらす新たな「人」との出会いを大切に行きたいものです。社会生活でも「人」との関わりを断つことは出来ません。コロナ禍に在っても、可能な限り相手の目を見て会話し、マスク越しではありますが、声色や表情から「人」の心情を汲み取る術を育むことで、「人」との繋がりは深まっていくものです。社会に出るまでの今この時期にこそ、それぞれが人生の師を見つけ、良き友との出会いを求めていくことを切に願っています。





◆小林 郁美 教諭 (芽室高校)

三条生へ
三条生に出会って「家庭科」がもっと好きになりました
三条生に出会って「先生」という仕事が誇りになりました
三条生のおかげで「幸せ」な12年間でした
あなたの人生はあなたのものです
悩み 迷い 孤独 恥 後悔

どんな自分もいつかの自分に必要 だから捨てずに重ねてください
何が起るかわからない世の中です わからないから楽しい♪
そう思えるくらい 強く やさしく しなやかに 生きてください
これからも「ぼくを探しに」 みなさんの「幸せ」を願っています



◆原林 章 教諭 (帯広柏葉高校)

このたびの人事異動で帯広三条高校での勤務を終えることになりました。生徒、保護者の皆様方にはたいへんお世話になりました。厚くお礼申し上げます。三条高校では10年間の勤務でしたが、思い出深いのはやはり応援歌No.1とウルトラセブンです。この2つを中心とした野球全校応援での三条生のパワーは他を圧倒するものがありました。

最近の2年間はコロナ禍により、在校生諸君はたいへん窮屈な学校生活を余儀なくされてしまっています。状況は一変してしまいましたが、みんなで大きな声を出して一体感No.1になれる日が1日でも早く訪れるといいですね。そうなることを心より祈っています。

◆鈴江 真一 教諭 (清水高校)



平成29年から主に英語の授業、バスケットボールを通じて5年間お世話になりました。この数年間は、皆さんにとって、あたりまえの学校生活から、制限の中での学校生活、そして、新たな学校生活へと変化し、その中でも創意工夫を凝らし、意欲的に取り組んでいる姿には大変感激しました。ただ一方で、行事や部活動などの大会が中止となり、失ってしまったものがあることも現実です。しかし、そのような状況下でも、そこまで至るプロセスで得た経験や人と人との強い絆をつくれたことが今後の財産になるはずです。

困難な状況におかれても、是非、皆さんが自信を持ち、挑戦する勇気を持って未来に向かって進んでいくことを心から期待しています。

◆小野寺和也 事務長 (ご退職)



平成30年に赴任して4年が経ち今年度末で定年退職となります。

三条生は勉強・部活動・そして学校行事にと何事にも一生懸命に取

組む姿はとてすばらしく素敵に思います。

三条高校生である誇りと三条魂を忘れず自信と勇気を持って自分の今後の進路に向かって大きく羽ばたいてください。

陰ながら今後の活躍を期待しています。



◆小澤 幸司 公務補(ご退職)

三条高校で34年お世話になりました。学校周辺は働き始めた当時は何もなかったのですが、すっかりにぎやかになりました。時代も違うのですが、生徒たちも結構やんちゃで毎日いろんなことで振り回されたものです。今の生徒たちはあいさつもしっかりしてくれますし、分別のある行動をしています。特に部活動のユニフォームを着たとたん、あいさつも一層元気になりますし、行動もきびきびして微笑ましく見えていました。

高校時代は今しかありません。将来の夢が叶うように今しかできない勉強をしっかりやってください。これからも応援しています。ありがとうございました。



◆山田 敦子 事務生 (ご退職)

平成15年に三条高校に着任して19年勤務させて頂きました。

振り返って自分が学校のために何が出来たのかなと恥ずかしくなります。

でも、自分がというより多くの方々から学んだことが沢山あります。自分の力なさに落ち込むことも沢山ありましたが、事務の方、先生方が手をさしのべ助けてくれ、なんとか退職まで来ることができ感謝の気持ちでいっぱいです。

皆さんも、日々の生活で色々なことがあると思いますが、自分一人で悩まず声をかけあったりすることでお互いの心が安心して幸せになることもあると思います。

◆三原 有希 専門主任主事 (中札内高等養護)



平成28年度から6年間事務室で勤務させて頂きました。

私も十勝出身なので、帯広三条高校はどんな学校？と気になっていましたが生徒の皆さんはとても爽やかで、部活も勉強も一生懸命な印象で、エネルギーを感じました。

また業務の中で、卒業後も母校に思いを寄せる方が多いことに感心しました。皆さんも、これから様々な進路に進み、三条生として思いを引き継いで行くのでしょうか？ちょっと、羨ましいと感じたことでした。何もかも思うに任せない昨今ですので、だからこそ見えてくる本当の気持ちを大切に実現させてください。ありがとうございました。



ご退職・異動される先生方、本校のためにご尽力いただき誠にありがとうございました。ここに残る私たちは、より一層素晴らしい学校づくりに邁進することが諸先生方への恩返しと思っています。どうか今後も三条高校を見守っていただければ

幸いです。はなむけに米国の劇作家、ジャーナリスト、下院議員を勤めたクレア・ブース・ルースの言葉を贈ります。

「過去には帽子を脱いで敬意を表し、未来には上着を脱いで立ち向かえ」
校長 合浦英則